（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391500024		
法人名	医療法人社団孔和会		
事業所名	グループホームあかね苑		
所在地	熊本県天草市久玉町5716－9		
自己評価作成日	平成21年11月4日	評価結果市町村受理日	平成22年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3－13－12－205
訪問調査日	平成21年11年20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同敷地内に母体である病院と併設しており、看護師の配置もあることから病院との連携も強固で、日常の健康管理のサポートや緊急時にも敏速に対応でき、職員・家族共に安心感と心強さを持っている。また、隣接しているパワーリハビリを心身活動と生活自立を目標に実施している。来年度は開設丸三年になる為、グループホームの待機者を対象に、デイサービスを立ち上げ取組んで行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体の病院に隣接したホームは、24時間医療連携やパワーリハビリの活用・音楽療法への参加等法人が一体となって入居者の日常生活を支援している。研修体制も確立し、“笑顔がいっぱい溢れる　明るい　あかね苑”でありたいという職員は、入居者一人ひとりの思いや言動を受容し、明るいケアが笑顔を引き出している。ホームオリジナルの経過観察記録等職員の観察力を反映したプランや個別ケアの実践・ケア統一に向けた取り組み、医療との連携が終末期ケアを可能のものとしており、このホームで最期まで希望される家族も多い。運営推進会議や家族会での意見をホーム運営に生かし、掲示板や広報誌の回覧等により地域住民への啓発は行き届いており、婦人会向けの介護教室の講師等職員の専門性を発揮し、地域の一員としての位置を確保している。“笑顔の花を咲かせよう”という職員の意気込みが十分に表れ、和やかな日常生活を垣間見ることの出来るホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

n n	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも念頭に置き、日々入居者様へ対する想いを忘れない為に、朝礼時呼称するようにしている。また、カンファレンスや朝礼・終礼時に、報告・連絡・相談を心がけ実践につなげている。	開設時に職員で作り上げた理念5項目は入居者を視点に、家族や地域の方々との結びつきを大切にしたサービスの提供を目指したものである。玄関への掲示や朝礼時の唱和により意識向上を図っている。また、ケア向上や地域との連携強化等今年度の目標として掲げ、全職員の共通認識のもと、入居者の“笑顔”と“今”を大切にしたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域文化祭やどんど焼き等への参加、ハイヤ祭りには皆で見学に出かけ楽しみにしている。また、地域のグランドゴルフ大会に「あかね苑杯」を作って頂き参加し、地域の中の事業所として支えて頂きながら、地域交流を図っている。	事業所前の掲示板の活用や広報誌等の回覧により地域への啓発は行き届いている。散歩や買い物時の地域住民との交流や母体法人の通所リハの利用者との交流、地域行事（ハイヤ祭り・どんどや等）の見学や地区の福祉祭りには作品を出品し参加したり、グランドゴルフには「あかね杯」を作り入居者も参加される等、地域の中での生活は拡充され、地域の一員としての位置を確保している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中には、地域婦人会会長・民生委員など、地域の主軸となる方達がおられ、全体に対する症例をふまえた、認知症の勉強会なども開催している。地域で支える体制作りを目的に、婦人会や老人会で認知症について介護教室の依頼があれば、いつでも開催出来る事を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑での取り組み状況等について報告し、ご意見を頂だくと同時に、ご家族を対象としたアンケート調査結果報告や外部評価に至るまで全部を報告し、話し合いの場からアドバイス等サービスの向上に役立て活かしている。また、地域情報や介護相談等も会議の中で出てくるなど、地域ニーズの拾いあげの場ともなっている。	奇数月と定例化した運営推進会議は事前に議題を案内し、活動報告や外部評価結果・独自のアンケート調査結果等透明化を図り、食事体制について“なめらか食”を管理栄養士が説明し、ミキサー食を作る等創意工夫している。委員からの情報により地域住民の相談に応じる等地域貢献にも繋がっている。	委員構成は婦人会長や民生委員・老人会長等地域の主軸の参加があり申し分ないが、家族は代表者1名となっている。多くの資料を基にした有意義な話合いが行われており、参加の無い家族にも議事録や資料の送付により共有化とすることが期待される。

nn	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでの最新情報のやり取りを実施している。また、電話での相談やご意見を頂き、サービスの向上に役立てている。運営推進会議には市の担当者も出席され、実施状況や課題などのアドバイスを頂く関係作りができている。	行政担当者から毎回運営推進会議に参加があり、情報交換や意見交換を通してホーム運営に活かすとともに、メールや電話で最新情報を得たり、加算等の相談等を行う等良好な関係であり、市主催の介護教室では在宅介護（婦人会向け）で講師を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	孔和会で行ってる介護事業研修会への参加と共に、マニュアルに添って対応している。身体拘束は言葉での拘束等、研修で学んだことが生かされる工夫をしている。玄関は朝6時から21時まで施錠しないで、いつでも出入りができる様になっている。	身体拘束や虐待・権利擁護については法人全体の研修会への参加や事例検討等により全員が正しく認識している。施錠も拘束の一つと捉え、玄関は施錠無く、近隣住民や隣接病院の職員の見守り等の協力、帰宅願望に一緒に散歩に出かけたり、所在確認・見守りの徹底により、安全な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	孔和会勉強会で認知症実践者研修修了者の研修会に参加したり、虐待防止マニュアル等で勉強し意識付けしている。また、他サービス事業所での実例をもとにした勉強会などを活用し、地域の問題を自施設での学びの場としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	孔和会で行っている介護事業研修会で、県の権利擁護推進員研修修了者の、孔和会看護師長の勉強会に参加し、理解を深めるようにしている。また、職員に社会福祉士がいる為いつでも相談できる体制である。また、自施設で以前あった事例をもとに自分達の役割を確認し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項の説明を行い、質問にも苑の対応など十分納得して頂いたうえで契約している。		

n n	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し記載して頂ける様にしている。家族会などでのアンケート調査も実施し、貴重なご意見での改善に取り組んだケースも多い。ご意見は素直に受け止め、直ちにカンファレンスを開き検討し、新たな対応を行っている。施設長への報告も直ぐ行い、ご家族への結果報告はもちろん、運営推進会議での報告も行っている。	入居者からの意見や要望は少ないが、日常のかかわりや会話から把握にし、墓参りしたいとの希望にプランに入れ支援している。毎月の利用料金持参時に家族との情報交換の時間を設け、家族会時のアンケート調査等意見や要望の収集に努めており、出された意見は前向きに全員で検討し、家族や運営推進会議の中で結果を報告し、サービス向上に反映させている。	入居者や家族との関係は良好であり、毎月家族に状況を報告し共有化を図っている。多くの写真も残されており、ホーム独自に広報誌を作成することも検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で発生する意見等出しやすい雰囲気づくりと、その意見に対し改善すべき所は直ぐにも改善している。また、個別の目標面接の機会を利用し、職員の意見や提案を聴き、サービスに反映させている。	申送り・朝礼・終礼等お互いに気づいたこと等を言い合える雰囲気にあり、部署会議には問題点を持ち寄り検討し、管理者会議が最終決定となっている。“自分磨き”としての外部研修への参加等研修体制も構築しており、年2回の管理者との個別面談等職員の意見や悩みを話す機会もあり、勤務シフトや研修参加等職員の意向や都合を優先している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	方針発表会での代表者の発表があり、また、毎月の管理者会議に於いて、各部署の実績や努力などを把握すると共に、評価表チェックにより状況把握、気になる職員との個別面談など実施し、職場環境整理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に関して、職員通用口への掲示や朝礼での呼びかけ等で、それぞれが研修内容を検討し、参加できる体制がとれている。認知症研修には毎年計画的に実践者・リーダー研修へと受講。また、CM・介護福祉士受験への支援を先輩がフォローしていく体制作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問もあり情報交換を行っている。また、グループホーム連絡協議会への参加等で、ネットワーク作りやお互いのサービス向上に役立てている。		

n n	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問することで、ご本人または、本人の代弁者である家族の方から情報を頂き、ご本人の歴史を把握し、よい人間関係が築けるようにしている。また、入居のめどがついた段階の他サービス利用時から交流を図り、把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問によりご家族の一番の悩み、望みなど聞く機会を作り、苑での生活を話したり見学をすすめたりして、安心してご家族を入居させる為の信頼関係をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくり話しを聞き、冷静に今何が必要かを見極め、他の居宅サービスの紹介や手配のお手伝いをしている。手に余る問題に関しては、孔和会に相談し適切な支援が図れる様にしている。CMとも密に連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの習慣や知識、残存機能を充分に生かしてもらえるよう準備したり、職員の学びの場として色々な場面で関係を維持している。野菜づくりまたは、料理が得意な方は料理をしながらコツを教えてくださったり、教える表情は活き活きされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊の機会を作って頂ける様な働きかけや支援を行い、病状が安定した段階で在宅生活も支援しながら、ご家族と共にご本人を支えて行ける関係作りを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会や地区の行事へ参加し、馴染みの人達との関係を保つ様にしている。美容院や自宅近所への買い物、ドライブ等昔からの繋がりを大切に関わる事が、ご本人の認知症悪化防止と考え関わっている。また、自宅への逆デイサービス等計画し、近隣の顔馴染みの方も呼ぼうと考えている。他サービスへお連れし、交流を図っている。	馴染みの人や場所との関係性を継続するため、地域の老人会や行事へ参加、行きつけの美容院や自宅近くでの買い物、墓参・ドライブ等支援している。また、母体の通所リハ利用者や併設の認知症デイの利用者等地域の方々との交流が入居者の情報把握につながっており、今後も入居者の自宅で地域の方々との交流を計画していく意向である。	

n n	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないよう職員が間に入り、話題の提供やレクレーションの参加等への呼びかけをしている。トラブルになりそうな時にも早目にキャッチし、何気なく回避出来る様な関わりに努めている。また、一人一人の関係性を把握し、世話をやかれる方・関わって欲しい方など、上手く関係作りできる働きかけも実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご本人・家族との交流は続いており、情報交換を行いながら、家族介護負担がどうか、支援は必要か等、CMも含めた関係作りを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等での話し合いで把握に努めたり、普段の会話の中でキャッチし、困難な場合は相手の立場になって考えたり、今の気持ちも大切にして本人の意向に添える様努めている。また、誕生日に何を希望されるか等も聞き取り、実施される様な働きかけを行っている。	日常のかかわりや会話の中で思いや意向を把握したり、入居者の立場に立った推察等入居者の“今”を注目し、カンファレンス等で話合っている。また、家族の情報はもちろんのこと、友人の面会時には入居者の昔の様子等を把握し、喫茶店でコーヒータイムを楽しむ等本人本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ケアマネ・入居前に利用していたデイサービスからの情報は勿論のこと、親戚・友人等の面会があった時は、ケアプランに生かせる新しい情報が入る場合がある。担当を中心とし、ご本人・家族へ対しての情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昔からの習慣を大切にし、継続できる様支援している。花や野菜の水かけ・新聞の取り入れ等、本人の残っている能力を見極める努力をし、ケアプランに生かして行ける様にしている。		

nn	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成した時点で担当者会議を開き、ご家族への説明と共に職員やかかりつけ医師の意見を聞きながら、本人にとって何が一番幸せかをご家族を含めて検証し、事故等発生した場合はその都度ケアカンファを行い、原因究明と共にケアプランの中に新たなニーズとして作成し、1ヵ月毎に評価を行い見直しを行っている。	アセスメント時に本人・家族の意向を把握し,日々の個別記録や担当職員の観察結果(オリジナルの観察記録用紙を作成)をもとにミーティングで話し合いを重ね、ケアカンファレンスより問題点を検討している。入居者の出来ることを視点に、職員の観察の結果が反映され、現状に即した具体的・個別的な介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自のオリジナル用紙(経過記録・モニタリング・睡眠や痛みの観察用紙)を用いて、入居者の様子・気づきを書き込み変化がわかるようにしている。それを基に計画作成に役立て、定期的に改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのみの視点ではなく、言語聴覚士や理学療法士・管理栄養士など、孔和会が持っているあらゆるサービスの機能を最大限発揮すると共に、他事業所との関係を保つことによって、より良い支援に繋げている。帰宅願望がある人は住み慣れた自宅へお連れし、地域の顔馴染みの人を巻き込んだ対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児・小学生との交流やボランティアの方々の踊り、また、音楽療法の参加など楽しい時間を共に過ごせる様に努めている。また、自分達の作品を文化展に出品し観に入ったり、どんどやへの参加・初詣・グランドゴルフ大会など、安全を確保しながら色んな所へ出かけて行ってる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望・ご家族のご意見を聞き、了解を得た上で職員同伴の受診へと繋げている。また、受診時に生活状況などの情報提供を行い、結果は面会時や電話・FAX等で家族へ伝えている。	本人・家族の了解のもと、母体の隣接病院がかかりつけ医として職員が受診対応を行っている。状態変化や主治医からの指示等がある場合は電話やFAXにより家族に報告し共有化を図り、日々の健康管理により早期発見に努め、緊急時体制の確立や主治医への相談・指示を受ける等適切な医療が受けられるよう支援している。	

n n	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での健康面の相談のみでなく、異常時などすぐ相談・報告出きる為に早期発見に繋がっている。また、ターミナルでの看取り経験より、訪問看護でのフォローや連携の大切さが分かり、診療部門のナースとも協働ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関との情報交換としてサマリーをとりかわしたり、職員の見舞い等により入院祭活が問題なく短縮でき、帰苑時の自分達の役割も明確となり、連携や相談が図れる体制作りができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向について、年1回の家族会で聞き取り調査をしている。病状の見極めがついた段階で、本人やご家族の意向に添うよう聞き取りし、職員及びかかりつけ医と話し合いを行い方針を決めている。併設型で医療機関も近い事から支援体制について直ぐに準備できる体制である。	指針4項目のもと家族に説明し同意書を交わし、年1回家族会のアンケートで家族の意向を把握している。入居者の病状により家族・主治医・職員で方針を話合い、居室を声が聞こえるようにレイアウトし、毎日主治医の訪問や訪問看護との連携のもと看取りケアを行っている。また、重篤な入居者が回復されたケースもあり、法人全体での協力体制が構築し、高齢期の入居者を全員が一丸となってチームケアに取組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えての勉強会と、消防署から人体模型を借りてきて、慌てず行動できる様に実施訓練を行い、日頃よりイメージトレーニングを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いでの避難訓練（昼・夜想定）や地元消防分団長との連携で、直ぐに対応していただけるようにしている。	防災訓練は消防署立会いにより昼・夜間を想定した総合訓練を年2回行い、運営推進会議には地元の消防分団長の参加もあり、協力を依頼している。防災マニュアルも整備し、備蓄の用意や日々火元確認を徹底している。	隣接の病院からの応援体制は確立しており、今後掲示板等を活用し訓練日の周知により地域住民の安心へとつなげたり、夜間帯には地域住民の協力が不可欠であることや職員の勤務体制により昼間は地域に協力できる事等相互の協力体制の構築に期待したい。

nn	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分が「そうなった時どうして欲しいか」を基本に、尊厳を持った言葉かけに努めている。職員の気になる表現には「今のはAですよ」との言葉かけの実践や、相手を思いやった気配りによる実践を行っている。孔和会内の個人情報保護法の話し合いや、秘密保持の徹底を職員が図れる様努めている。外部施設見学には同意書を頂いている。	職員は自分に置き換え考えた行動を心がけ、入居者一人ひとりを高齢者として敬い、労いの言葉かけ等思いやりの気持ちをもってケアに当たっていることはトイレ誘導や傾聴する姿勢などから確認できた。入居者の前ではトイレや食事等職員だけが分かる隠語を使用し、管理者は職員の言葉使い等気づいた時はその場で指導している。部署会議で個人情報保護の勉強会を開催し、家族からの同意書の他、見学者からも同意書を受け入れ、守秘義務や情報漏えいには徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日に好物を聞いたり、その日のおやつや飲み物の選択、入浴時間や入浴剤など、職員の誘導ではなく本人の希望を聞きながら、カードなどで意思表示のできる環境づくりをして、心地よい生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで行って頂き、苑での行事なども強制はせず、見守りを重視した支援を行っている。何か頼まれたら必ず立ち止まり、その人の今の想いや言葉を大切にし、牛深弁での敬語で接したりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族へ以前の生活スタイルや本人の好みを聞き出し、より元気な頃の装いが継続出来る様な取り組みをしている。情報は職員間で共有し、その人らしく、美容室に関しては出来るだけ馴染みの店に通って頂いている。また、外出時は薄く口紅を塗るだけで、華やいだ気分になられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や好まれる作業、また、特技や残存能力を生かして職員と共同して行っている。参加は強制しない様にしながらも、自ら参加される様な誘導で興味が持てる様な働きかけをしている。	法人内の栄養士作成の献立であるが、地域住民等からの野菜の差し入れ等により入居者に何にするか聞き取りし、臨機応変に変更している。入居者も野菜の下ごしらえ等一緒になって楽しく調理に参加されている。大きな声を出すことや歌うことでむせ対策としたり、テーブルや椅子の高さ調整、体位にも十分に配慮した食事であり、職員は介助が必要な入居者のフォローに当たったり、食の進み具合により声かけ等を行い、朝食と夕食は職員も同じ食事を摂っている。	

n n	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量をチェックし、水分が確保出来る様内容に変化をもたせる工夫をしている。栄養バランスは管理栄養士の献立を中心に支援しているが、うまく食事が摂れない方には、医師と相談し栄養食品の補充や、嗜好を取り入れるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し、入れ歯の清潔保持に努めている。また、言語聴覚士に相談したり指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時は尿取りパットやはくパンツを着用されている方も、排尿・排便パターンを調べて声かけを行いトイレ誘導し、オムツは使用しないでよくなった方もいらっしゃる。	排泄チェックの記録により、排泄パターンを把握し、入居者の心身状況への気配りやトイレ誘導の声かけを工夫し、尿意の無い入居者もトイレ誘導により自尿や自立に繋げている。また、じょくそう予防・改善に尿量を計測したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会を行い、食事に関しては食物繊維を意識した食事内容と、栄養士の立てた献立を中心に提供し、一日の水分量もチェックし注意している。運動面でも体操や散歩により予防し、2日排便ない時はオリゴ糖を飲んで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆さんの入居前の生活習慣を大事にし、ご希望や体の汚染時以外の午前中の入浴は避け、出来るだけその日の気分やご希望による入浴をして頂いている。また、よもぎや柚・菖蒲・入浴剤を使用し、入浴の楽しみを工夫している。	毎日午後からの入浴となっているが、希望や汚染等には適時対応している。また、夏場は夕食後のシャワー浴も採りいれ、入浴拒否に声かけを工夫した対応となっている。入居者の何気ない一言から、よもぎを摘み対応したことが「よもぎ湯は温まる」と、大変喜ばれ好評とのことであり、先人の知恵を拝借している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣や状態に応じて、ベッドや畳を選択して頂いている。また、午睡時や休息時は本人の好まれる場所で自由に、居室やホールのソファーや畳で横になって頂いている。		

nn	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬について」薬局の薬剤師に来苑して頂き勉強会を行ったり、薬局からの説明書をすぐ見れる場所に置き、用法・用量・効能等を確認し服薬支援を行っている。副作用等の変化に対しては、早目の主治医への相談を行っている。病状変化は看護職を中心に、経過記録で看ていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくり暦・花や野菜の水かけ・金魚の飼育・お茶の準備・食事の後片付けや茶碗拭きおお・得意な煮物などを教えてもらったりと、自分の役割と思い実施されていることを誘導しながら、役に立っていると張り合いになる様に支援。また、忘れられたりした場合はスタッフや他入居者の手助けなどで、継続できる働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力・身体的機能低下や気分転換を考え、本人へ希望を確認して、買い物や苑外散歩・ベンチでのティータイムを行ったり、隣にあるパワーリハビリも利用している。また、季節感を味わって頂く為に、季節毎の地域のイベントや花見・地域の祭り等への外出を行っている。	入居者の希望で買い物や散歩、隣接のパワーリハビリの利用等体調や天候を考慮しながら支援している。戸外に出かける工夫をしていることは個々に応じた散歩コースやおにぎり持参のピクニック等に表出され、季節毎に地域行事や花見等車椅子の入居者も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある時は一緒に行き、自分で商品を決め、支払いまでして頂く様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いたり話がしたいなど電話のご希望があれば、スタッフが取り次ぎのお手伝いをして、お話は自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「暖かで心地よい空間を提供します」と理念に掲げている様に、季節をわかって頂くためにホールの飾り付け等も変化していく様努めている。また、TVやCDの音量も不快とならない様にし、掃除機をかける時間帯にも注意をしている。	玄関前のベンチはティタイムの場とした活用され、ホーム内の壁面は季節に応じた飾り付けや入居者の作品等が掲示されている。段上がりの畳のコーナーは横になったりテレビを見たりと憩いのスペースとなり、掃除機の音等騒音にも配慮している。“暖かで心地よい空間の提供”の理念を十分に反映し、台所の音が食思意欲を引き出し、居心地良く過ごす工夫が随所に表れている。	

n n	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間でテレビを見たり、ソファーに座り会話されたり、また、手作業などテーブルで行える様にしている。座る場所は定着しており、いつも隣にいる方がいないと心配される場面もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込み家具などを出来るだけお願いし、新しい物ではなく使い慣れたものを置くようにお願いしている。	居室は馴染みの箪笥や籐椅子等が持ち込まれ、整頓され、掃除もよくされ落ち着ける空間である。内障子やフローリング中央に畳が敷かれ、生活歴や身体機能に応じベッドや布団の生活となっており、自立に向けた支援も行っている。	居室への手すりが検討されている。居室の中央に布団での生活である入居者もおられるため、今後も職員の手助けが重要のようである。身体機能低下も予測され、家具のレイアウト等も検討いただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の今までの生活スタイルで、例えば布団を使用し上げ下ろしを自分で行っている人や、腰痛などがあり立ち上がりが困難でベッドを使っている人など、その人の身体機能を考えて、自立に向けた工夫を行っている。		